

2024年度 事業報告書

(2024月1日から2025年3月31日まで)

- I. 事業の概要
- II. 処務の概要

I. 事業の概要

2024 年度は、2021 年度から進めている事業制度改革が徐々に軌道に乗り、大型の研究助成が開始されました。今後、これまでよりも長期にわたる研究支援により、若手研究者の人材育成に貢献していきます。

「研究事業」では、フェロー研究については、新たなフェローの採用はなく、それぞれがより充実した研究環境で研究推進できるように、フェロー3 名は引き続き大学との共同研究により大学を拠点として、研究活動を行いました。フェロー研究報告会は、少人数の現地聴講とオンライン配信を組み合わせたハイブリッド方式で、1 回(2 月)開催しました。豊田理研懇話会は、ハイブリッド方式で3 回(7 月、2 月、3 月)実施しました。また、豊田理研ワークショップは対面形式で1 回(3 月)実施することができました。

「助成事業」では、ライジングフェローの支援とスカラー共同研究 Phase2 の支援が始まりました。「ライジングフェロー制度」はスカラー制度開始時(2011 年度)からこれまでのスカラーで構成される「スカラーコミュニティ」から選ばれた新進気鋭の研究者を支援する制度で、2023 年度に初めて選ばれた3 名に対し、2024 年度から支援を開始しました。今後、5 年間にわたって支援を継続します。「スカラー共同研究」は「異分野若手交流会」参加者間の交流から生まれる異分野若手共同研究で、新分野創生とプロジェクトリーダー育成を目指す、選抜・再編を経る最長6 年間の継続支援制度で、前年度の Phase1 の実施評価を経て、Phase2 へ進んだ3 チームへの支援を実施しました。「海外大学院進学支援制度」の支援対象者「Toyota Riken Overseas Predoctoral Fellow(OSPDF)」は6 年目を迎え、新たに進学コース7 名、準備コース1 名を採択し、留学していた1 名が新たに学位を取得しました。

運営面では、広報活動として昨年度発行した、アニュアルレポートを引き続き発行いたしました。また、財団のホームページを刷新し、写真や動画も多く使いながら、より分かりやすくお伝えするようにしました。

以下、各事業および 2024 年度に推進した取り組みについて説明します。

1. 研究事業

1-1 フェロー事業

(1) フェローと研究テーマ

2024 年度はフェロー3 名、客員フェロー1 名の計 4 名で研究活動を実施しました。
研究内容および成果の詳細は、豊田理研ホームページで公開の「豊田研究報告 No.78」
に記載の通りです。

表 1. フェローと研究テーマ

在籍	氏 名	研究テーマ
4 年 目	大谷博司（東北大学 名誉教授）	第一原理計算に基づく理論状態図の構築と 準安定物質創成に関する研究
	田中秀樹（岡山大学 名誉教授）	柔軟な水素結合による水と氷の多様性の発現機構
3 年 目	前野悦輝（京都大学 名誉教授）	非従来型超伝導物質の研究

表 2. 客員フェローと研究テーマ

在籍	氏名	研究テーマ
3 年 目	瀧川 仁（東京大学 名誉教授）	角度分解 NMR による電子系の隠れた秩序の検証

(2) 科研費

フェローは、表 3 に示す通り、研究にあたり日本学術振興機構の科学研究費助成事業
(科研費)の助成または補助を受けております。

表 3. 2024 年度に助成・補助を受けた科学研究助成事業

研究種目	研究代表者	研究課題
基盤研究B	大谷 博司	熱力学的準安定性の制御による新物質合成に関する研究
基盤研究B	前野 悦輝	Sr2RuO4 での「非従来型」を超える超伝導状態の探求

科研費の助成、補助を受けるにあたっては、研究不正を防止する体制を整備し、フェロー
をはじめとする職員に対する啓発、教育を行い、不正防止に努めています。

2024 年度に行った研究不正防止研修会を表 4 に示します。

表 4. 研究不正防止に関する研修会・説明会

実施日時	名称等	内容
2024 年 8 月 6 日 (火)	研究不正防止講演会 /科学研究費助成事業 公募説明会 場所： 豊田理研会議室 説明者： 事務局 鈴木 逸朗 浜辺 宏子 参加者： 研究者 3 名、 事務局員 10 名	1. 研究不正防止に向けた研究倫理教育 の普及・定着に向けた取り組みの説明・ 議論 (1) 研究不正に関する最近の事例紹介 (2) 日本学術振興会の倫理教育研修映 像教材の視聴および討論 2. 令和 7 年度の公募の説明

(3) フェロー研究報告会

フェローの研究成果を発表、議論するフェロー研究報告会を実施しました。表5に報告会の発表テーマ、発表者等の詳細を示します。

いずれも井口ホールでの少人数の現地聴講にオンライン配信を組み合わせたハイブリッド方式で行いました。

表 5. フェロー研究報告会

第 36 回フェロー研究報告会				聴講者	139 名
日 時	2025 年 2 月 10 日 (月)	形 式	豊田理化学研究所井口ホールで講演、オンライン配信		
発表テーマ(発表者):					
① 第一原理計算に基づく理論状態図の構築と準安定物質創成に関する研究			(大谷博司フェロー)		
② 柔軟な水素結合による水と氷の多様性の発現機構			(田中秀樹フェロー)		
③ 核磁気共鳴法による電子系の隠れた秩序の検証			(瀧川 仁 客員フェロー)		
④ ルテニウム酸化物の超伝導と磁性			(前野悦輝フェロー)		

(4) 豊田理研ワークショップ

豊田理研が主催するワークショップは、フェローが中心となって、国内外の著名な研究者を招聘し、特定の研究分野に関して集中的に議論する場を提供することで、各研究分野の進展に寄与しようとするものです。

2024 年度は、表 6 に示す 1 件を実施しました。

表 6. 豊田理研ワークショップ

通算 回数	開催日	場 所	テーマ	主催 フェロー	参加者
16 回	2025 年 3 月 3 日 ～3 月 4 日	豊田理化学研究所 井口ホール	現代に適応するデータベース	大谷博司	50 名

1-2 学術談話会

(1) 豊田理研懇話会

「最先端で活躍している著名な先生をお招きして、難しいことを、易しく」話していただくセミナー「豊田理研懇話会」は、研究事業の一環として年 3 回実施しています。

井口ホールでの現地聴講にオンライン配信を組み合わせたハイブリッド方式で開催しました。オンラインでは豊田理研関係者のみならず、近隣の大学、研究機関の方々にもご参加いただいて、活発な討議が行われています。2024 年度は 3 回開催し、2012 年度に開始以来、通算の開催回数は 36 回となりました。セミナー題目、講演者の一覧を表 7 に示します。

表 7. 2024 年度 豊田理研懇話会のテーマ

回	年月日	講演者	セミナー題目
1	2024 年 7 月 24 日	大阪大学大学院医学系研究科 特任教授 吉森 保 氏 *トヨタコンボン研究所との共催	生命いのちを考える 私たちはどこから来て、 どこへ向かうのか？ 「生命の守護神であるオートファジー」 聴講者:540 名
2	2025 年 2 月 25 日	明治大学総合数理学部 先端メディアサイエンス学科 教授・学科長 宮下芳明 氏	味を“ダウンロード”する時代へ —味覚メディアが紡ぐ新たな食のフロンティア— 聴講者:279 名
3	2025 年 3 月 12 日	大阪大学 大学院医学系研究科 東京科学大学 総合研究院 教授 武部貴則 氏	腸呼吸の可能性 聴講者:231 名

(2) 物性談話会

名古屋大学と共催で、東海地方の物性物理学研究者の啓発を図る場として活動しています。2024年度は現地とオンライン形式とのハイブリッド形式で、表8に示す8回の談話会を開催しました。1963年に発足以来、通算の開催回数は445回となりました。

表 8. 2024 年度 物性談話会の活動

回	年月日	講演者	講演題目
1	2024 年 5 月 20 日	金沢大学 准教授 奥田 覚 氏	器官形成における多細胞のアクティブな物性制御とその役割 聴講:24 名
2	2024 年 7 月 11 日	東京大学 准教授 蘆田祐人 氏	開放系の物理 聴講:29名
3	2024 年 7 月 25 日	上智大学 教授 大槻東巳 氏	共進化する物理学と人工知能の現在 聴講:34 名
4	2024 年 10 月 10 日	東京大学 准教授 辻 直人 氏	超伝導体の集団励起モード: 現代の視点から 聴講:30名

5	2024 年 10 月 11 日	物質・材料研究機構 (NIMS) 理事 谷口 尚 氏	超高圧合成における不純物、欠陥制御 -ダイヤモンド及び窒化ホウ素単結晶の高品位化 と機能開拓 - 聴講:37 名
6	2024 年 10 月 28 日	早稲田大学 教授 勝藤拓郎 氏	強相関材料の軌道自由度と多機能性 聴講:28 名
7	2024 年 11 月 11 日	東京大学 教授 高橋嘉夫 氏	XAFSによる層状ケイ酸塩の分析が拓く 小惑星 -環境-資源研究の最前線 聴講:59名
8	2025 年 1 月 16 日	学習院大学 教授 宇田川将文 氏	厳密にとけるKitaevスピン液体モデル 聴講:45名

(3) 分子科学フォーラム

分子科学の発展を希求する幅広い研究者に討論の場を提供する事を目的に、分子科学研究所と共催で開催しており、一般市民にも公開しています。2024年度は、表9に示す4回のフォーラムをオンライン形式で開催しました。1996年に発足以来、通算開催回数は141回となりました。

表 9. 2024 年度 分子科学フォーラムの活動

回	実施年月	講演者	講演テーマ
1	2024 年 7 月 3 日	桐蔭横浜大学 特任教授 宮坂 力 氏	どこが特別!?ペロブスカイト太陽電池の性能と社会実装の可能性とは？
2	2024 年 10 月 19 日	分子科学研究所 所長 渡辺芳人 教授 魚住泰広 (一般公開特別公演)	分子研の歩み 持続可能な循環型分子合成への挑戦
3	2024 年 11 月 8 日	大阪大学 特任教授 吉森 保	病気や老化、寿命を左右する細胞のしくみ・オートファジー ～役に立つか分からなかった研究は、いかにしてノーベル賞をとったか～
4	2025 年 1 月 21 日	東京科学大学 理事・副学長・教授 波多野睦子	ピンクダイヤモンドが量子センサに?!

2. 助成事業

2-1 豊田理研スカラー

豊田理研スカラーは博士の学位を有し、所属大学の推薦を受けた優秀な若手教員の中から、研究課題が当所の設立趣旨、目指す方向と合致する方を選定し、研究費用の一部を助成する制度です。

(1) 2024 年度の採択者

2024 年度は、表 10 に記載の 49 名の研究者に対し、規定の研究助成金を支給し、研究推進を支援するとともに、助成金贈呈書を授与しました。研究は年初に策定した研究計画にそって実施されました。研究内容および成果は、豊田理研ホームページで公開の「豊田研究報告 No.78」に記載の通りです。2011 年度の制度発足以来、採択者合計は 450 名になりました。

表 10. 2024 年度豊田理研スカラーの所属と研究テーマ

No	大学名／専攻		氏名	職位	研究テーマ
1	北海道	理	高橋 ローレン	助教	機械学習から脱却した触媒インフォマティクスによる合成・計測データが連動した不均一固体触媒の開発
2	東北	工	森 翔平	助教	ウェアラブル超音波による気胸検出モニタリング手法の開発
3			山本 壮太	特任助教	量子干渉で観る永久スピン巡回状態
4		金属	長田 礎	助教	ニッケル酸化物超伝導の量子臨界性に関する研究
5		学際科学 フロンティア	岡本 泰典	助教	多機能化バイオベシクルの開発
6		数理科学	谷地村 敏明	助教	正則化混合ガウス最適輸送理論による細胞分化の軌跡推定手法の構築
7	筑波	数理 物質系	宮川 晃尚	助教	分子クラウドニング環境を模倣した有機溶媒中の反応機構の解明
8			鄭 サムエル	助教	電気化学的CO2還元法を用いたエタノール合成用ガス拡散電極の開発
9		計算科学	ヘンファサト ポルン コウイ ット	助教	リガンド-タンパク質複合体構造探索のための新規計算手法の開発と創薬への応用

10	東京	工	藤田 貴啓	助教	エピタキシー技術による界面創発磁気輸送現象の高機能化
11		生技	森近 一貴	助教	電気化学反応制御へ向けた表面増強赤外フェムト秒パルスによる多段階振動励起
12		物性研	ヤン ハン	助教	量子物質における創発電磁力学の設計
13		医学	小嶋 良輔	准教授	DARPin と機能性有機小分子色素を活用した activatable 型抗原センサの開発
14	慶應義塾	理工	小川 愛実	専任講師	脳卒中片麻痺患者における机の高さが上肢リハビリテーションに与える影響解明
15	東京工業	理	黄 柏融	助教	二次元有機無機ハイブリッドペロブスカイト材料における電気分極誘導スピン選択現象の開拓
16			山本 和樹	助教	開放系の量子多体不純物問題で探る冷却原子系と固体電子系の橋渡し
17		物資理工	相馬 拓人	助教	“複合アニオンアモルファス半導体”の創製
18	東京医科歯科	M&Dデータ科学センター	清水 秀幸	教授	パーシステントホモロジーと機械学習の融合による抗がん剤探索手法の確立
19	東京農工	工	内田 紀之	特任助教	膜変形リポソームを利用した高効率ウイルスキャリアの開発と創薬への応用
20		グローバルイノベーション	鈴木 龍汰	特任助教	沈殿反応を伴う界面流体力学研究の創成
21	信州	工	浦上 法之	助教	層状窒化炭素薄膜における室温強磁性の発現
22	岐阜	高等研究院	東 小百合	特任助教	アミノ糖誘導体からなる超分子ナノファイバーの人工細胞骨格への応用

23	名古屋	工	市原 大輔	助教	極超音速・低レイノルズ数流れにおける球体空気抵抗モデルの確立
24			大村 修平	助教	鉄の酸化力を起点とする持続可能な精密有機合成法の開拓:医薬品合成を指向した2,3-ジヒドロベンゾフラン類の迅速合成
25			久志本 真希	講師	高効率深紫外半導体発光素子に向けた新規コンタクト層の開発
26	名古屋工業	工	松原 翔吾	助教	シッフ塩基を活用したアジャスタブル分子ケージの創製
27	豊田工業	工	阿南 静佳	助教	共有結合形成により高分子と複合化したMOFの機械的強度の向上
28	豊橋技科大	工	小松 和暉	助教	雑音による非線形性の緩和のOFDM受信機への応用
29	三重	工	名和 憲嗣	助教	高効率スピン軌道トルクに向けた多元系金属の軌道ホール効果の第一原理計算
30	京都	工	石井 順恵	助教	SARシミュレータを用いた3次元地盤変動の推定精度向上に関する研究
31			西岡 季穂	助教	陽極酸化アルミナを用いたリチウム酸素電池の充電過電圧の要因分析
32			杉山 佳奈美	助教	理論化学による窒化ガリウム結晶成長初期過程の機構解明
33		化学研究所	ピンチェラ フランチェスカ	講師	合成漆および混合漆(アジア漆)サンプルの開発と特性評価:新しい持続可能な機能性材料に向けて
34			長尾 一哲	助教	水素ラジカル等価体を用いた分子変換プロセスの開発
35		高等研究院	猪瀬 朋子	特定准教授	光応答性金属有機構造体融合プラズモニクナノワイヤーを用いた単一細胞内物質導入技術開発
36		薬学	南條 毅	助教	N-ハロ化技術を基盤とする難合成非天然型ペプチドの迅速供給法の確立
37		環境安全	堀江 正信	助教	ナノ・ヒーティングによる組織凍結保存技術の開発

38	京都工芸繊維	分子化学	外間 進悟	助教	カーボン量子ドットによる蛍光寿命型の細胞温度計測
39	大阪	基礎工	宇佐見 喬政	助教	メモリデバイス応用に向けた界面マルチフェロイク構造の二値性制御
40			細井 優	助教	一軸圧力印加による負圧領域に隠された反強磁性相の探索
41		工	重光 孟	講師	近赤外光で駆動する超分子光増感剤の開発とセラノスティクスへの展開
42		理	以倉 峻平	特任助教	熱力学的安定性と速度論的運動性の切り分けによる高分子材料の強靱性・分解性・自己修復性の両立設計確立
43		エマージングサイエンス	古川 可奈	特任助教	力学で挑む気管軟骨の“形”作りメカニズムの解明
44	九州	工	佐伯 龍聖	助教	ダンベル型Ti電極を用いた電鋳・剥離法により作製されたNi基超合金薄板の微小硬度と引張強度特性
45		システム情報	顧 玉杰	助教	大規模医療データの活用効率化と患者の個人情報保護の両立に向けて
46		理	宮田 潔志	准教授	干渉分光を利用した不均一光機能性材料の分光研究
47			松沢 健司	講師	上皮組織の恒常性に関わる細胞外小胞の機能解析
48		先端物質化学研究所	アルブレヒト 建	准教授	青色熱活性化遅延蛍光 dendrimer の創製
49	熊本	先端科学	寺澤 有果菜	助教	高感度イメージセンサ材料の開発

(2) 豊田理研異分野若手交流会

若手研究者の育成や連携の促進を狙いとして、「豊田理研スカラー」「特定課題研究代表者」を対象に、2016年度から「異分野若手交流会」を開催しています。2024年度は9/3～9/4にミッドランドホールにて115名が参加し実施しました。

さまざまな分野の研究者が集合し、異分野間の情報交換やネットワーク作りを支援し、新たな研究テーマ創出の機会を提供しました。今年度は、当年度採択スカラーに加え、過去スカラー採択者、特定課題研究代表者の参加を呼びかけ、年度を跨いだスカラー間の交流の充実を図りました。

(3) 豊田理研スカラー共同研究

この制度は「豊田理研異分野若手交流会」の場で、スカラー間で新たに生まれた「共同研究」に対して助成を行うもので、2016年度から始まりました。

2024年度は、スカラーコミュニティ(当年度スカラーおよび過去スカラー)の異分野若手交流会参加をきっかけに、参加者間での分野を超えた共同研究Phase1として10チームが活動しました。表11に、2024年度実施のPhase 1 10チームを示します。

また、Phase1の実施を経て、更に大きな進展が期待できるテーマについて、スカラー共同研究評価委員会により選出された3チームがPhase2へ移行します。実施した3チームを表12に示します。Phase2は2年間支援していきます。

表 11. 2024 年度実施 豊田理研スカラー共同研究 (Phase1)

No	共同研究テーマ名	所属・氏名
1	マイクロデバイスを用いた老化血管モデルの構築とラマン分光法による評価技術の確立	名古屋大学 准教授 清水一憲
		早稲田大学 次席研究員 杉山夏緒里
2	分子凝集をトリガーとする酵素阻害の現象解明と新規創薬分野への展開	神戸大学 助教 森田健太
		筑波大学 准教授 原田隆平
3	合成化学と理論計算の融合を起爆剤とする精密設計タンパク質工学の開拓	静岡大学 助教 佐藤浩平
		筑波大学 助教 堀 優太
4	腫瘍免疫環境をリアルタイムで可視化・活性化するがん診断治療法の創成	静岡大学 准教授 大多哲史
		京都大学 助教 三浦理紗子
5	新奇箱型電子受容性分子を用いた光誘起電子移動の実現	岡山大学 教授 山方 啓
		京都大学 助教 秋山みどり
6	イオン伝導性ガラスを用いた超小型人工衛星に搭載可能なタンクレス固体推進機の開発	豊田工業大学 准教授 渡邊保真
		名古屋工業大学 准教授 大幸裕介

7	生体における精緻なハロゲン結合に着想した有害環境化学物質トラップ分子の創製	京都大学 助教 大谷俊介
		九州大学 准教授 松島綾美
8	排熱有効利用システムに向けた熱電と蓄電のデバイス融合	早稲田大学 准教授 出浦桃子
		豊橋技術科学大学 助教 引間和浩
9	V 族半金属ヘテロ積層薄膜の純スピン流測定	早稲田大学 准教授 高山あかり
		福井大学 准教授 後藤 穰
10	トンネル磁気熱抵抗効果の研究	福井大学 准教授 後藤 穰
		大阪大学 助教 石部貴史

表 12. 豊田理研スカラー共同研究 Phase2 (1 年目)(※チームリーダー)

No.	共同研究テーマ名	所属・氏名
1	接続可能な食料システム構築および宇宙農業を目指した植物栄養吸収制御と土壌開発	明治大学 准教授 田畑 亮(※)
		筑波大学 教授 重田育照
		慶應義塾大学 准教授 高橋英俊
2	薬物動態・代謝を可視化する高空間分解能質量分析イメージング技術の開発	大阪大学 准教授 大塚洋一(※)
		名古屋市立大学 教授 小山 聡
		岐阜大学 准教授 古山浩子
		岐阜大学 准教授 本田 諒
3	動的溶液環境のセンシングおよび液・液相分離の制御と計測	京都大学 教授 菅瀬謙治 (※)
		名古屋大学 教授 吉田紀生
		岐阜大学 教授 池田 将
		豊橋技術科学大学 教授 永井萌土
		京都工芸繊維大学 准教授 櫻井庸明
		京都大学 助教 中曽根祐介

2-2 新フェロー制度

2-2-1 ライジングフェロー

日本国内の大学に所属する教員で、科学技術の分野において世界をリードする研究者に対して、大型の研究助成を継続的に実施することにより、研究の更なる進展を加速し、学術の振興、発展、および人材育成に貢献するための支援制度です。

過去に豊田理研スカラー採択の実績がある者の中から、活発な研究活動を実施している新進気鋭の研究者に助成を行う事で、将来一流研究者としての活躍が期待される者を「ライジングフェロー」として5年間サポートしていきます。

2023年度に募集、審査の上、採択された表13に示す3名について、2024年4月から助成を開始しました。

表 13. 2024 年度 ライジングフェロー

	氏名	研究テーマ
1 年 目	東北大学 多元物質科学研究所 准教授 大野真之	アニオンの複合化で拓く固体イオニクスのフロンティア
	京都大学大学院 理学研究科化学専攻 教授 後藤佑樹	ハイブリッド擬天然物ペプチド戦略の推進
	大阪大学 免疫学フロンティア研究センター 特任准教授 朴 昭映	生体分子アンサンブルによる機能性核酸の開発と 創薬基盤プラットフォームの構築

2-2-2 シニアフェロー

世界トップレベルの業績をあげている定年を控えた一流研究者に助成を行う事で、所属する大学等を拠点に研究を継続していただき、当該分野の更なる進展が期待される者を「シニアフェロー」として支援する制度です。

なお、シニアフェローの募集は、ライジングフェローの応募・採択状況により検討していきます。2024年度までに採択者はありません。

2-3 特定課題研究

2021年より特定課題研究の募集を休止しています。

(2021年10月11日 第43回理事会 承認済み)

2-4 海外大学院進学支援制度

科学技術の分野で、海外の大学院で博士号(Ph.D.)取得を目指す日本国籍の学生に対して、その留学を支援することにより、国際的に活躍できる人材の育成を図ることを目的に、2019年度に開始しました。

2024年3月～5月にインターネットを利用して公募を行いました。その結果、①海外大学院進学コースに22名、②海外大学院進学準備コースに3名の応募があり、若手人材育成選考委員会で書類選考、面接選考を行い、表14の通り、進学コース7名と準備コース1名を採択しました。

この制度からオックスフォード大学(英)へ留学していた高橋拓豊さんが Ph.D.を取得しました。今後の活躍を大いに期待します。

表14. 海外大学院進学支援制度 海外大学院進学コース2024年採択者

氏名	野間裕太
在籍大学	東京大学 電気系工学専攻
留学先	トロント大学 (カナダ)
留学開始	2024 年 8 月～

氏名	久野桃子
在籍大学	東京都立大学 生命科学専攻
留学先	パデュー大学 (アメリカ)
留学開始	2024 年 8 月～

氏名	三木武志
在籍大学	慶應義塾大学 総合政策学部
留学先	ケンブリッジ大学 (イギリス)
留学開始	2024 年 9 月～

氏名	奥田航大
在籍大学	東北大学 経済学部経済学科
留学先	エコール・ポリテクニーク(フランス)
留学開始	2025 年 9 月～

氏名	永島来悟
在籍大学	東京大学 物理学専攻
留学先	カールスルーエ工科大学(ドイツ)
留学開始	2025 年 9 月～

氏名	幅 優斗
在籍大学	九州大学 機械航空工学科
留学先	コーネル大学 (アメリカ)
留学開始	2025 年 9 月～

氏名	伏見宗太郎
在籍大学	京都大学 機械システム学専攻
留学先	カリフォルニア大学サンディエゴ校 (アメリカ)
留学開始	2025 年 9 月～

海外大学院進学準備コース 2024年採択者

氏名	王 方成
在籍大学	東京大学電気系工学専攻
準備活動	スタンフォード大学研究留学

また、2年間の支援を終えた学生らは、現在も現地でPh.D.取得に向け留学中です。今後続く後進のメンター役や、将来の豊田理研のコミュニティづくりなどにも協力してもらうため、留学支援終了後も追加支援を行っています。

2-5 寄付

科学技術の振興に向けた人材育成に関する支援に加え、今後、公益事業拡大に向けた調査、試行のため、表15に示す対象先に総額7,500万円の寄付を行いました。

表 15. 寄付先

寄付先	人材育成の主な対象
一般社団法人研究基盤協議会	技術職員
NPO 法人 STS フォーラム	若手研究者
名古屋大学大学院工学研究科(卓越大学院)	大学院生
東京大学生産技術研究所メイカーズスペース (一般財団法人生産技術研究奨励会)	学部生 大学院生
公益社団法人物理オリンピック日本委員会	高校生
一般社団法人 STudent・Academia Research Project (ST-AR Project)	
九州大学 QURIES プロジェクト(伊藤早苗記念基金)	
SSH(スーパーサイエンスハイスクール)コンソーシアム TOKAI (幹事校:名古屋大学教育学部附属中・高等学校)	

3. 広報活動

3-1. 豊田研究報告の刊行（第 77 号）

2023 年度在籍のフェロー、客員フェローの研究報告に加え、豊田理研スカラー、スカラー共同研究の研究報告を発行しました。（2024 年 6 月）

詳細は、ホームページよりご高覧ください。

3-2. アニュアルレポートの発行

2023 年度の財団 1 年間の活動を掲載したアニュアルレポートを 2024 年 6 月に発行しました。財団の取り組み、目指すものを分かり易く記録としてまとめました。

3-3. ホームページの維持、管理

当財団の理念、および助成制度を若手研究者や広く一般の方に分かり易くお伝えすることを目標に、ホームページを刷新いたしました。従来の「財団概要」、「事業紹介」、「募集情報」、「イベント情報」等を分かりやすく整理するとともに、人材育成に注力する運営方針や新しい助成制度の魅力がより直接伝わるサイトにしております。

掲載内容をタイムリーに入れ替え、常に新しい情報を提供いたします。また、更に分かりやすいホームページを目指して改良を進めて参ります。

Ⅱ. 処務の概要

1. 役員会に関する事項

表 16 に示すように、2024 年度は、通常理事会 2 回、臨時理事会 3 回、および定時評議員会 1 回、臨時評議員会 1 回を開催いたしました。

表 16. 理事会、評議員会の開催状況

役員会	開催年月日	議案	結果
第 55 回 通常理事会	2024 年 6 月 11 日 (火)	1) 2023 年度 事業報告書承認の件 2) 2023 年度 決算報告書承認の件 3) 定款変更の件 4) 理事候補者の件 5) 監事候補者の件 6) 評議員候補者の件 7) 規程制定の件 8) 第 29 回評議員会 (書面審議) 開催の件	承認 承認 承認 承認 承認 承認 可決 可決
第 29 回 定時評議員会 (書面審議)	2024 年 6 月 26 日 (水)	1) 2023 年度 事業報告書の件 2) 2023 年度 決算報告書の件 3) 定款改定の件 4) 理事選任の件 5) 監事選任の件 6) 評議員選任の件 7) 規程改定の件	可決 可決 可決 可決 可決 可決 可決
第 56 回 臨時理事会 (書面審議)	2024 年 7 月 12 日 (金)	1) 所長選定の件 2) 所長の報酬額の件 3) 企画・運営委員会 委員選任の件 4) ライジングフェロー候補者の件 5) 2024 年海外大学院進学支援候補者の件	可決 可決 可決 可決 可決
第 57 回 臨時理事会 (書面審議)	2024 年 12 月 20 日 (月)	1) 審査委員およびフェロー選考委員選任の件	可決
第 58 回 臨時理事会 (書面審議)	2025 年 2 月 21 日 (金)	1) 第 30 回評議員会招集の件	可決

第 59 回 通常理事会	2025 年 3 月 5 日 (水)	1) 2025 年度 事業計画書(案)の件 2) 2025 年度 収支予算書(案)の件 3) 海外金融資産取得の件 4) 規程制定の件 5) 研究棟改修の件 6) 寄付の件	可決 可決 可決 可決 承認 可決
第 30 回 臨時評議員会	2025 年 3 月 5 日 (水)	1) 寄付の件 上記理事会(1)～(5)報告	

付属明細書について

2024 年度事業報告には、「一般社団法人及び一般財団法人に関する法律施行規則」第 34 条第 3 項に規定する付属明細書「事業報告の内容を補足する重要な事項」が存在しないので作成しない。

2025 年 6 月
公益財団法人 豊田理化学研究所